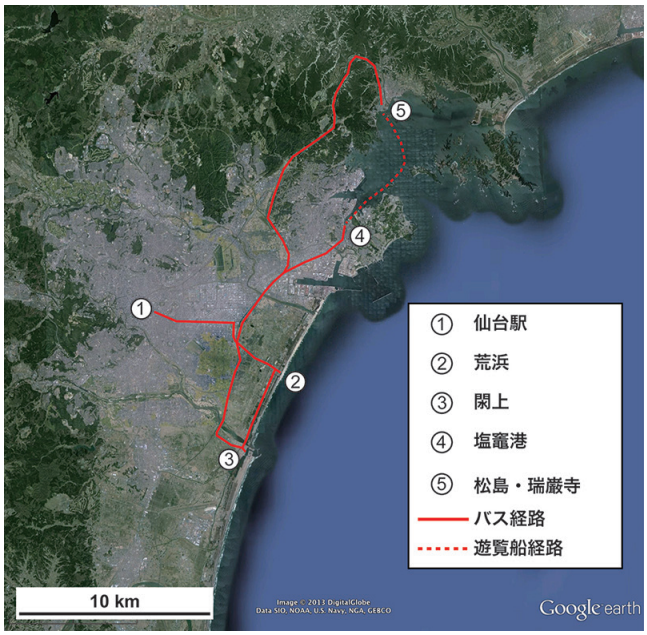
第 49 回 CCOP 年次総会開催報告（その３）
地質巡検

田村　亨[1)]・安藤亮輔[2)]

2013年10月21～24日に仙台で開催された第49回CCOP（東・東南アジア地球科学計画調整委員会）年次総会の最終日に日帰りの野外巡検を実施しました．今回の総会のセマティックセッションでは地質災害がテーマとなったことから，2011年に津波被害のあった仙台周辺の被災地を回り，外国からの出席者に被災地の現状と多様性を把握してもらうことを主眼に巡検を計画しました．前日までの会議参加者の大多数が巡検に参加し，合計で18カ国から123名の参加でした（写真1）．このうち産総研の10名（内田利弘，渡辺真人，高橋　浩，宮野素美子，宝田晋二，小泉尚嗣，宍倉正展，斎藤文紀，田村，安藤），金沢大学の塚脇真二教授，名古屋大学の高橋裕平教授が４台のバスに分乗し，案内と通訳を務めました．

巡検ルートは，当日の朝，仙台市内を出発し，仙台市若林区荒浜と名取市閖上（ゆりあげ）の２ヶ所の沿岸被災集落を見学し，塩竈（しおがま）港～松島海岸間の松島湾観光遊覧船内で昼食をとり，松島の瑞巌寺（ずいがんじ）を観覧し，再び仙台市内のホテルに帰着する



第１図　巡検のコース．

写真１　巡検参加者の集合写真．荒浜にて．

１）産総研 地質情報研究部門
２）産総研 地質分野研究企画室

キーワード：国際会議，野外巡検，津波，海岸，アジア

写真２　宍倉チーム長（写真右）による津波堆積物はぎ取り試料の説明.

写真３　閖上での現地案内．閖上中学校慰霊碑前にて.

写真４　松島湾観光遊覧船に乗り込む参加者.

コースでした（第１図）．参加者が分乗した４台のバスは，１番目の見学地点である荒浜まで行った後，先に閖上に行くグループと，瑞巌寺に行くグループに分かれました.

荒浜では，津波被害を受けた荒浜集落の様子と津波による海浜地形や海岸林への影響を観察しました．また，産総研が採取した西暦869年貞観津波堆積物のはぎ取り試料をもとに，宍倉正展海溝型地震履歴研究チーム長から仙台平野で行われてきた津波堆積物の研究や古津波の復元に関する説明がなされました（写真２）.

閖上では，NPO法人「地球のステージ」が主催する，被災者の方による現地案内をしていただきました（写真３）．現地案内者１名ずつがバスに乗り込み，集落内を回りながら案内が進められました．津波の体験者による現地案内は非常に迫力がありましたが，中には津波により親族を亡くされた方もおられました．このため，時に通訳の言葉が詰まる場面もありました.

松島湾の観光遊覧船では，昼食をとりながら，仙台平野沿岸部に比べて小さかった松島湾沿岸部の津波被害の状況を観察しました（写真４）．また，日本三景である松島の景観を楽しみながら，島に露出する中新世堆積岩および火山岩を観察することができました．瑞巌寺では残念ながら本堂が修復中でしたが，他の建築物や宝物館での収蔵品の展示を見学しました.

参加者123名と大人数の巡検でしたが，全て計画通りに実行することができました．大人数のために見学地点の場所や数に制約がありましたが，被災地２ヶ所を見学することができ，中でも閖上での現地案内は，非常に有意義であったと思います．セマティックセッションにおいて2011年震災関連の発表が多くなされて参加者に十分な予備知識があったため，巡検の効果が非常に高かったように感じられました.

最後に，閖上での現地案内に際しては，NPO法人「地球のステージ」の林由美氏と４名の現地案内者の方々に非常にお世話になりました．この場を借りてお礼申し上げます.

TAMURA Toru and ANDO Ryosuke (2014) Report of the 49th CCOP Annual Session (Part 3): Field Excursion.

（受付：2014 年２月４日）